

佐賀県基山町立基山小学校

(概要)

- ・ 児童生徒数（クラス数）：624名（21クラス）
- ・ 構造・階・面積・事業費：鉄筋コンクリート造り銅板葺き、2階建て、6,239㎡、17.1億円
- ・ エコスクールの事業タイプ：太陽光発電型、資源リサイクル型
- ・ 整備期間：（検討期間：H15～H18、工事時期・期間 H19.10～H21.3）
- ・ 要旨

町制施行 70 周年の節目を迎え、新しい時代のニーズに応えた特色ある基山小学校の改築に当たり、児童が将来に向かって希望に満ちて学習に励むことができるよう細部にわたって配慮した。また、太陽光発電設備や採光利用など環境を考慮してエコスクールの実現をめざしている。

(エコスクール化の内容)

校舎等には多目的に使用できる広い廊下と開放的な玄関ホールを作り、地元木材を使ったランチルーム、ウッドデッキの中庭など木材をふんだんに使用した。また、太陽光発電や天井からの採光利用など環境を考慮した施設にした。

給食センターには「生ゴミ処理機（バイオ式）」を取り付けている。毎日出てくる生ゴミを処理し堆肥として蓄え、学級農園の堆肥に使用した。



太陽光発電システム：日々の発電量



電力供給のために校舎屋根上に設置した太陽光発電



太陽光発電システムの説明図を児童の靴箱のところに設置している。児童はこれを見て太陽エネルギーや学校がそれを利用していることに興味関心をもってきた。理科や家庭科、その他の授業の中で太陽光発電にふれ、環境教育に役立てている。



採光利用を考えた教室の天井窓



ゴーヤによるエコカーテン

(エコスクール化の効果)

太陽光発電設備の話をする事で日々表示される発電電力や発電電力量に興味を持ったり、自然エネルギーに関心を持ったり、地球温暖化を考えたりする児童が増えた。今後、発電電力量の数値などを算数科の授業に取り入れ、実際どれくらいの電気代の削減になっているかを調べるなど生活の中に生かしていく予定である。

生ゴミを処理して肥料として再利用することも家庭科の授業をはじめ、いろんな場面で知らせエコ意識の向上に努めている。



太陽光発電を見ている児童

(環境・エネルギー教育への活用)

本校は、エコの視点から水の再利用のための常設ポンプが備わっている。雨水をポンプ内に溜めておき、学級園の植物の水やり等に利用している。また、ポンプは理科の授業でも実際に活用している。

本年度はエコカーテン（植物によるカーテンで室内温度を下げる）の取り組みをすることで児童のエコに対する関心が高まった。



常設ポンプを使用する子ども